



1 課題 近年、貧栄養化や夏季の水温上昇などの影響により、瀬戸内海全体で養殖牡蠣の生産量が減少している。さらに、天然資源に依存している種苗が確保できない年が頻発している。

2 概要 三津湾の環境を調査し、下水処理緩和運転の必要性和実施の効果を検討する。また、海底水揚水装置によるカキ肥育効果や海水温低下効果を現場検証し、養殖の効率化をはかる。併せて、採苗実験により、採苗の安定化、三津湾の牡蠣の高付加価値化の検討を行う。

大学 **小池 一彦**
広島大学
大学院統合生命科学研究所
生物資源科学プログラム 教授



市担当課 ×
産業部
農林水産課

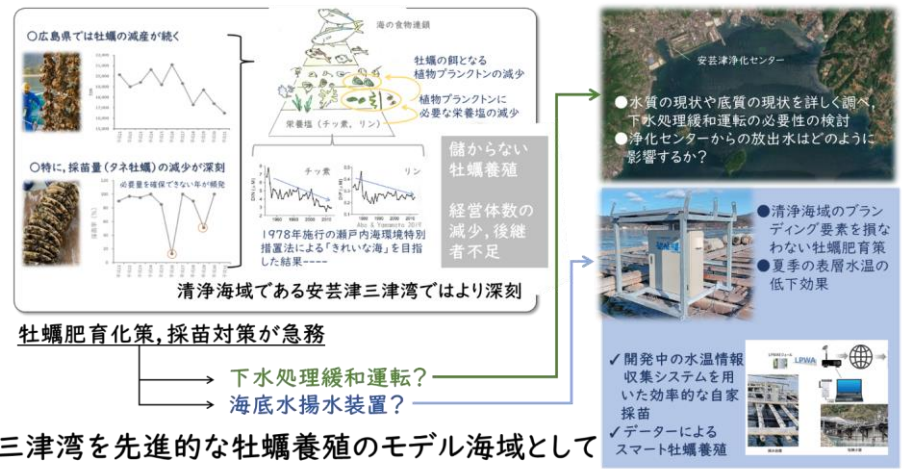
関係機関 ×
安芸津漁業協同組合
早田原漁業協同組合
古川精機株式会社



▲海底水揚水装置「SPALOW」
※2024年4月17日時点 最新モデル



▲海洋調査の様子
※2024年5月22日



3 到達目標・方法

- (1) **三津湾の状況把握**
牡蠣養殖に活用するため、三津湾での詳細なデータを把握
- (2) **底質の状況把握**
三津湾の環境改善に活用するため、海底の栄養や微生物等の状況を把握
- (3) **下水道処理緩和運転の効果検証**
緩和運転実証実験の前提条件となる水質と牡蠣の状況を把握

- (4) **海底水揚水装置SPALOWの効果検証**
装置の貧栄養・高水温への対策としての効果を検証
- (5) **採苗の試行**
他海域で実施している採苗の三津湾での実施可能性を検証
- (6) **ICT化バージョンSPALOWの活用**
装置の多機能化による普及拡大の可能性を検討